

平成 19 年 3 月 2 日
気 象 庁

今冬の積雪状況と今後の降水量の見通し

今冬の特徴

・記録的な暖冬

冬を通じて冬型の気圧配置は一時的で、全国的に気温が高く経過した。秋田、仙台(宮城県)、東京、名古屋(愛知県)、大阪、高松(香川県)、福岡など 63 の気象官署で、冬の平均気温の高い記録を更新し、東日本と西日本の地域平均気温は、地域平均の統計のある 1946/47 年の冬以降で最も高かった。

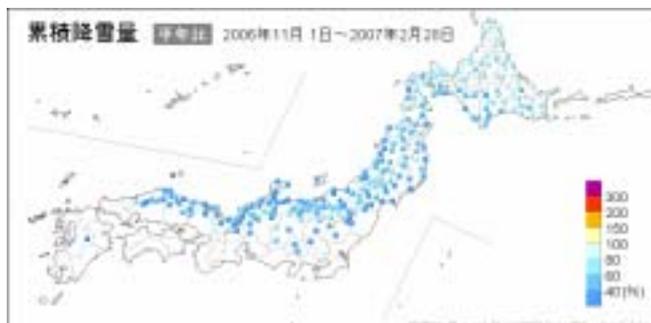
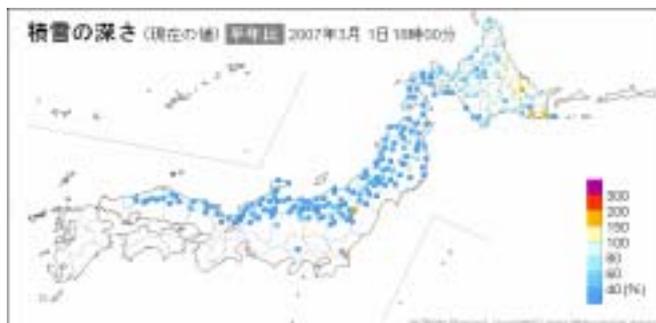
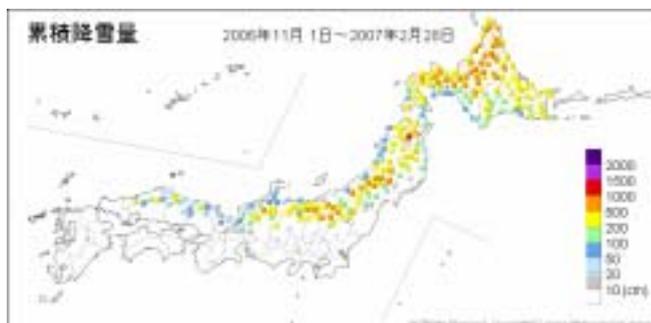
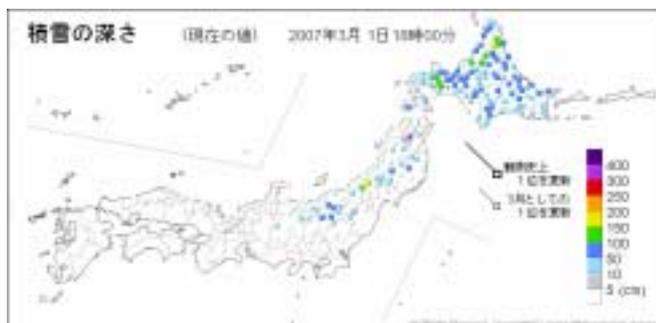
・日本海側で記録的少雪

冬型の気圧配置が現れにくく、全国的に降雪はかなり少なかった。冬の降雪量は、北陸地方で平年の 9% となるなど、北日本、東日本、西日本日本海側の降雪量は地域平均の統計のある 1961/62 年以降で最も少なかった。また、北陸から山陰にかけて冬の降水量も少なかった。

・急発達した低気圧と北・東日本の太平洋側の多雨

12 月下旬と 1 月上旬に、東日本から北日本の太平洋沿岸を、低気圧が急激に発達しながら北上したため、大雨や暴風により大きな被害が発生した。これらの低気圧の影響で北・東日本の太平洋側で多雨となった。

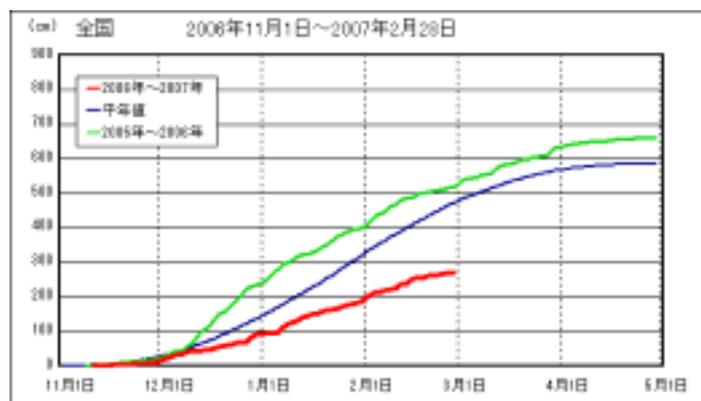
(気象庁報道発表資料から <http://www.jma.go.jp/jma/press/0703/01c/tenko061202.html>)



最新の積雪状況と 11 月からの累積降雪量

気象庁ホームページの掲載資料：http://www.data.kishou.go.jp/mdrr/snc_rct/index_smsnd_smhi.html

参考資料



全国で平均した累積降雪量の時系列：今冬（赤）、平年（青）、昨冬（緑）

冬の記録更新状況（地域平均で1位更新のみを記載）

- ・ 冬の平均気温（平年差）の最高値更新（1947年以降）
 - 東日本 +1.7（これまでの最高値：+1.4、1979年）
 - 西日本 +1.6（これまでの最高値：+1.3、1998年）
- ・ 降雪の深さ（冬の合計）（平年比）の最小値更新（1962年以降）
 - 北日本日本海側 54%（これまでの最小値：76%、1989年）
 - 北日本太平洋側 41%（これまでの最小値：64%、1999年）
 - 東日本日本海側 9%（これまでの最小値：30%、1989年）
 - 東日本太平洋側 16%（これまでの最小値：26%、1995年）
 - 西日本日本海側 16%（これまでの最小値：17%、1972年）

今後の降水量の見通し

